

長崎県幼児教育センターだより



No. 25



2026. 3. 30



～新しい年度に向けて～

各園におかれましては、卒園式が終わり、区切りを迎えられていることと存じます。また今年度のまとめに加えて、新年度に向けての準備もなさっていることと思います。

さて、長崎県幼児教育センターが設置されて3年が経過いたしました。今年度も145件の訪問支援を行い、園の先生方と一緒に学ぶ機会をもつことができました。保育の質の向上、保育者の資質向上という点に多くの園と先生方が熱い思いをもち、真摯に学ぶ姿を様々な場面で拝見し、長崎県の保育がますます前進していると実感しております。

令和8年度は園内研修の充実のために、市町と協力して研修担当者が集まる会を組織することを検討しております。また、公開保育にチャレンジしたい園を応援する取組や市町幼児教育アドバイザー養成研修修了者へのフォローアップ研修も継続していきます。

今後も引き続き、皆さまに寄り添い、長崎県の保育の質向上に向けて、センター職員一同、力強い歩みを進めてまいります。どうぞよろしく願いいたします！

～令和8年度の研修計画～

来年度の研修についてお知らせいたします。下の(1)～(4)の他にも、初任や中堅の先生向けのオンライン研修も計画しております。随時、お知らせいたしますので、奮ってご参加ください。

(1) 園長等運営管理協議会

テーマ：「主体性を育む保育」

期日・場所：令和8年6月11日(木) 長崎県庁1階大会議室
6月12日(金) いちご保育園(諫早市)

(2) 幼児期の教育・保育力向上研修会

テーマ：「幼児期の運動遊びについて」

期日・場所：令和8年8月21日(金) 県立総合体育館

(3) 幼児教育研究協議会

協議主題「幼児教育と小学校教育の接続による教育の充実について」

研究園：大村市立放虎原こども園

期日・場所：令和8年7月22日(水) 中地区公民館(大村市)

(4) 幼児期の特別支援教育研修会

テーマ「特別な支援を必要とする子どもや保護者への対応」

期日・場所：令和8年11月17日(火) 長崎県庁1階大会議室

～長崎県幼児教育センターWebページアクセスについて～

長崎県のホームページがリニューアルされました。長崎県幼児教育センターのページには、以下のURLからアクセスできます。

[長崎県幼児教育センター - 長崎県ホームページ](#)

～保育の計画及び評価について～

現在、3要領・指針改定に向けた協議が進んでいることは、1月発行の幼児教育センターだより NO.23でも触れました。3月12日に開催された第7回保育専門員委員会では、保育の計画及び評価について議論がなされ、「発達を援助することを意図した主体的な遊びを中心とする活動の時間を設定したり、環境の構成・再構成を工夫したりするなど、5つの領域のねらいと内容を意識的に保育の計画等に位置付けているが、これらをより明確にし、保育実践の質の向上を図っていくことが重要ではないか」という論点が出されました。この視点は、日々の保育を進めるうえで大変重要です。令和8年度も県幼児教育センターでは訪問支援を続けてまいりますので、一緒に学びを深めていきませんか。

(文責：小林 真実)

＊ 転出職員から一言 ＊

このたびの人事異動により、長崎県幼児教育センターを離れ、平戸市立度島小中学校へ校長として赴任することとなりました。在任中は、皆さまから温かいご指導とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

特に、幼保小連携に関する取組や要録の研修会を通して、各園・各校の先生方とともに学び合えたことは、私にとって大きな財産となりました。また、訪問支援では、日々の保育・教育に真摯に向き合われている先生方と直接お話しする機会に恵まれ、幼児教育の奥深さと可能性を改めて実感いたしました。

また、県幼保小連携推進協議会の運営においては、各市町の幼児教育施設、学校教育課の皆様にご尽力いただき、感謝申し上げます。今後も幼保小連携推進、架け橋期のカリキュラム作成へ向け、力強く邁進されることを願っております。今後とも、県幼児教育センターの取組に変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ここで培った学びと経験を胸に、新たな職務にも誠実に取り組んでまいります。今度、赴任します学校は、小中併設校です。幼保小のみならず、中学校までしっかりと連携をしていきます。最後になりますが、これまでのご厚情に深く感謝し、皆さまのますますのご発展をお祈り申し上げます。

課長補佐 高田 敦

子どもは伸びようとする力をもっている

私は、保育を見るといつも「子どもってすごいなあ、おもしろいなあ」と思います。

同じことを繰り返しているように見えて、そのうち、自分で次の目標を見つけ、難易度を上げている姿。繰り返すうちに「こうしたらどうなるだろう」と新しい疑問をもって試す姿。自分で試したことを、もう一度やってみて「やっぱり」と納得する姿。繰り返すうちに、「できた!」と達成感を味わいながら、できることが増えていく姿。これらは、0歳の頃から見られる姿です。大人より、もっと純粋に学び、伸びていくところが尊敬できます。子どもって多分すごい能力と可能性を秘めています。

「こども主体の保育」とか「環境を通した保育」とか「遊びを通した学び」などは、「子どもは伸びようとする力をもっている」ことを大前提としています。大人が決めた枠の中でも伸びます。でも、枠がない方がいろいろな方向に伸びることができます。子どもそれぞれの「好き」や「得意」をたくさん見つけてあげたいですね。そのために、子どもの興味や関心を引き出す環境が大切です。これからも、長崎県内のすべての幼児教育・保育施設で保育の質を高め合っていただけることを期待しています。

センター長としてこのコラムを書くのも最後になりました。長崎県幼児教育センターで役職定年を迎えられたことをありがたく思っています。皆様に感謝しています。(でも、課長補佐として残りますので、引き続きよろしくおねがいします。)

センター長 室野 亜津子